

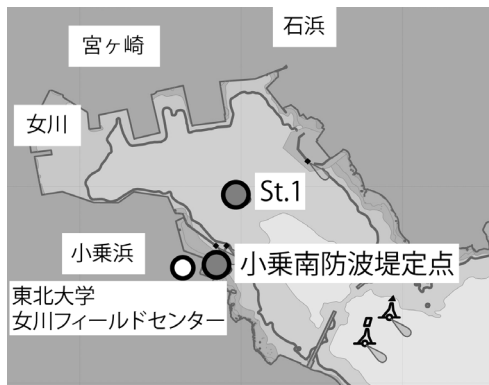
## 週刊 女川湾海況速報 (No.64)

発行：東北大学女川フィールドセンター

東北大学マリンサイエンス復興支援室

10 月 15 日から 18 日の小乗南防波堤定点と St.1 の海洋観測情報

## 観測点



## 小乗南防波堤定点の結果

①水温・塩分：先週と比較して全層で水温は下降したが、塩分は上昇。経時的に表層（0m）の水温は期間を通じて下降傾向にあったが、底層（6m）ではほぼ一定（19.7～19.9℃）で推移。鉛直的には 17 日以降に水温逆転が生じた。塩分については表層で期間を通じて下降傾向にあり、特に 17 日の下降が顕著。17 日以降の水温逆転と表層の低塩分はそれぞれ気温の低下と降水の影響と推定。

水深 [m]	10月15日 (火)	10月17日 (木)	10月18日 (金)
0	19.9 (33.3)	19.6 (32.8)	19.5 (32.4)
6	19.9 (33.3)	19.7 (33.1)	19.8 (33.2)

水温の単位は℃。

②濁度：先週と比較して表層で下降したが、底層では上昇。経時的には 17 日に全層で一旦上昇。特に底層での上昇が顕著で、9.5FTU を示した。（単位は FTU）

水深 [m]	10月15日 (火)	10月17日 (木)	10月18日 (金)
0	0.4	1.7	1.3
6	1.6	9.5	1.9

③溶存酸素：先週と比較して表層でやや下降したが、底層では上昇し、全層で 5～7mg/l 台を示した。経時的には全層で期間を通じて上昇傾向。特に 18 日の上昇が顕著で、全層で 7.3～7.4mg/l を示した。

水深 [m]	10月15日 (火)	10月17日 (木)	10月18日 (金)
0	5.8	6.4	7.4
6	6.2	6.2	7.3

単位は mg/l。水産用水基準（水産動植物が正常に生息および繁殖ができる値）：4.3mg/l 以上。

## St.1 の結果

水温、塩分はそれぞれ 19.4～19.9℃、32.7～33.3 の範囲にあった。濁度は 1.6～6.2FTU の範囲にあり、水深 19m で最大。溶存酸素は 6.4～6.7mg/l の範囲にあり、水深 10m 付近で最小。先週と比較して水深 5m 以深で酸素飽和度が上昇し、81～89%まで回復。

10 月 17 日

水深 [m]	水温 [℃]	塩分	濁度 [FTU]	溶存酸素 [mg/l]
0	19.8	32.7	1.6	6.5
5	19.8	33.1	1.8	6.5
10	19.9	33.3	1.6	6.4
15	19.4	33.3	6.1	6.6
19	19.4	33.3	6.2	6.7

本データの利用については、  
東北大学マリンサイエンス復興支援室

Tel.: 022-717-8827

Fax: 022-717-8828

E-mail:

[agr-marin@bureau.tohoku.ac.jp](mailto:agr-marin@bureau.tohoku.ac.jp)

までお問い合わせください。